

【表紙】

| | |
|------------|--|
| 【提出書類】 | 四半期報告書 |
| 【根拠条文】 | 金融商品取引法第24条の4の7第1項 |
| 【提出先】 | 関東財務局長 |
| 【提出日】 | 2019年5月10日 |
| 【四半期会計期間】 | 第21期第1四半期（自 2019年1月1日 至 2019年3月31日） |
| 【会社名】 | 株式会社オプトラン |
| 【英訳名】 | OPTORUN CO.,LTD. |
| 【代表者の役職氏名】 | 代表取締役社長執行役員 林 為平 |
| 【本店の所在の場所】 | 埼玉県川越市竹野10番地1 （上記は登記上の本店所在地であり、実際の本社業務は下記の「最寄りの連絡場所」で行っており、本店所在地は研究開発本部として機能しておりません。） |
| 【電話番号】 | - |
| 【事務連絡者氏名】 | - |
| 【最寄りの連絡場所】 | 東京都豊島区西池袋一丁目11番1号（東京オフィス） |
| 【電話番号】 | 03-6635-9487 |
| 【事務連絡者氏名】 | 取締役専務執行役員 管理部長 高橋 俊典 |
| 【縦覧に供する場所】 | 株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号） |

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

| 回次 | 第20期 第1四半期 連結累計期間 | 第21期 第1四半期 連結累計期間 | 第20期 |
|--------------------------------|---------------------------|---------------------------|----------------------------|
| 会計期間 | 自2018年1月1日 至2018年3月31日 | 自2019年1月1日 至2019年3月31日 | 自2018年1月1日 至2018年12月31日 |
| 売上高 (千円) | 10,710,689 | 13,975,669 | 44,763,006 |
| 経常利益 (千円) | 3,426,522 | 4,110,602 | 10,992,617 |
| 親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (千円) | 2,381,542 | 3,605,365 | 7,745,870 |
| 四半期包括利益又は包括利益 (千円) | 2,185,507 | 3,943,649 | 6,913,949 |
| 純資産額 (千円) | 23,253,944 | 29,786,776 | 28,062,699 |
| 総資産額 (千円) | 50,501,716 | 53,543,863 | 55,644,102 |
| 1株当たり四半期(当期)純利益 (円) | 57.97 | 86.62 | 187.64 |
| 潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益 (円) | 54.10 | 82.23 | 176.05 |
| 自己資本比率 (%) | 46.0 | 55.6 | 50.4 |

(注) 1. 当社は、四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3. 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 2018年2月16日)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、前第1四半期連結累計期間及び前連結会計年度に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を遡って適用した後の指標等となっております。

2【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社の異動については、新たに出資したことにより上海繁楓真空科技有限公司を持分法適用会社としております。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

なお、「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号 2018年2月16日）等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、財政状態については遡及処理後の前連結会計年度末の数値で比較を行っております。

(1) 経営成績の状況

当第1四半期連結累計期間（2019年1月1日から2019年3月31日）における世界経済は基調として堅調に推移しました。わが国経済も同様に、ゆるやかな成長を継続し、雇用・所得面で改善傾向が見られます。ただし、米国が中国・日本・EU等に対する貿易収支不均衡是正の対応要求により、経済政策面での影響を強めており、とりわけ米中貿易摩擦や英国のEU離脱問題による政策の影響も生じ、国際経済は変動要因が以前より大きい状況となっています。

そのような状況の下、当社業績は以下の理由により堅調に推移しました。まず、売上げ率が最も大きいスマートフォンにおいて中国・米国メーカーの生体認証機能の高度化への対応や筐体加飾の多様化による成膜技術対応等により、新たな装置売上が計上しました。また、引き続き、スマートフォン以外の中国メーカーを中心とする監視カメラ・IoT（生体認証・車載カメラ・センサ・半導体光学融合・光通信等）・LED照明への装置応用分野の拡大が当社売上高に反映し、業績は好調に推移いたしました。その結果、売上高は13,975百万円（前年同期比30.5%増）、営業利益は4,126百万円（前年同期比26.4%増）、経常利益は4,110百万円（前年同期比20.0%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は3,605百万円（前年同期比51.4%増）となりました。

(2) 財政状態の分析

（資産）

当第1四半期連結会計期間末の流動資産は、45,308百万円と前連結会計年度末に比べ2,834百万円の減少となりました。減少した要因は仕掛品や原材料及び貯蔵品が減少したことなどによるものです。

固定資産は、8,235百万円と前連結会計年度末に比べ734百万円の増加となりました。増加した要因は出資金が増加したことなどによるものです。

（負債）

流動負債は、21,944百万円と前連結会計年度末に比べ3,977百万円の減少となりました。減少した要因は、前受金や未払法人税等が減少したことなどによるものです。

固定負債は、1,812百万円と前連結会計年度末に比べ153百万円の増加となりました。増加した要因はリース債務が増加したことなどによるものです。

（純資産）

純資産は、29,786百万円と前連結会計年度末に比べ1,724百万円の増加となりました。増加した要因は利益剰余金が増加したことなどによるものです。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

当第1四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は739百万円であります。

なお、当第1四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

(5) 生産、受注及び販売の実績

生産実績

| セグメントの名称 | 生産高(千円) |
|----------|-----------|
| 成膜装置事業 | 1,239,032 |

- (注) 1. 金額は製造原価によっております。
2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

受注実績

| セグメントの名称 | 受注高(千円) | 受注残高(千円) |
|----------|-----------|------------|
| 成膜装置事業 | 6,790,813 | 32,043,023 |

- (注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

販売実績

| セグメントの名称 | 売上高(千円) |
|----------|------------|
| 成膜装置事業 | 13,975,669 |

- (注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

| 種類 | 発行可能株式総数(株) |
|------|-------------|
| 普通株式 | 177,432,000 |
| 計 | 177,432,000 |

【発行済株式】

| 種類 | 第1四半期会計期間末現在発行数(株) (2019年3月31日) | 提出日現在発行数(株) (2019年5月10日) | 上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名 | 内容 |
|------|------------------------------------|-----------------------------|------------------------------------|--|
| 普通株式 | 44,358,000 | 44,358,000 | 東京証券取引所 (市場第一部) | 権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であり、単元株式数100株であります。 |
| 計 | 44,358,000 | 44,358,000 | - | - |

(2)【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

| 年月日 | 発行済株式総数増減数 (株) | 発行済株式総数残高(株) | 資本金増減額 (千円) | 資本金残高 (千円) | 資本準備金増減額 (千円) | 資本準備金残高 (千円) |
|--------------------------|-------------------|--------------|----------------|---------------|------------------|-----------------|
| 2019年1月1日～ 2019年3月31日 | - | 44,358,000 | - | 400,000 | - | 2,186,800 |

(5)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(2018年12月31日)に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

2019年3月31日現在

| 区分 | 株式数(株) | 議決権の数(個) | 内容 |
|----------------|-----------------|----------|----|
| 無議決権株式 | - | - | - |
| 議決権制限株式(自己株式等) | - | - | - |
| 議決権制限株式(その他) | - | - | - |
| 完全議決権株式(自己株式等) | 普通株式 2,934,000 | - | - |
| 完全議決権株式(その他) | 普通株式 41,419,300 | 414,193 | - |
| 単元未満株式 | 普通株式 4,700 | - | - |
| 発行済株式総数 | 44,358,000 | - | - |
| 総株主の議決権 | - | 414,193 | - |

【自己株式等】

2019年3月31日現在

| 所有者の氏名又は名称 | 所有者の住所 | 自己名義所有株式数(株) | 他人名義所有株式数(株) | 所有株式数の合計(株) | 発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%) |
|------------|---------------|--------------|--------------|-------------|------------------------|
| 株式会社オプトラン | 埼玉県川越市竹野10番地1 | 2,934,000 | - | 2,934,000 | 6.61 |
| 計 | - | 2,934,000 | - | 2,934,000 | 6.61 |

(注) 1. 上記のほか、株主名簿上は当社名義となっておりますが実質的に所有していない株式が60,000株(議決権の数600個)あります。

2. 当第1四半期会計期間末日現在の自己株式数は、2,637,031株であります。

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（2007年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間（2019年1月1日から2019年3月31日まで）及び第1四半期連結累計期間（2019年1月1日から2019年3月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任大有監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

| | 前連結会計年度 (2018年12月31日) | 当第1四半期連結会計期間 (2019年3月31日) |
|---------------|--------------------------|------------------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | | |
| 現金及び預金 | 15,740,508 | 17,664,290 |
| 受取手形及び売掛金 | 6,837,100 | 8,680,184 |
| 仕掛品 | 20,148,171 | 15,809,052 |
| 原材料及び貯蔵品 | 4,339,278 | 2,667,167 |
| その他 | 1,497,420 | 886,704 |
| 貸倒引当金 | 420,067 | 399,286 |
| 流動資産合計 | 48,142,411 | 45,308,112 |
| 固定資産 | | |
| 有形固定資産 | 2,843,130 | 2,857,856 |
| 無形固定資産 | 65,552 | 60,651 |
| 投資その他の資産 | | |
| 投資有価証券 | 803,193 | 722,677 |
| 出資金 | 2,224,446 | 3,591,585 |
| 繰延税金資産 | 1,273,191 | 713,271 |
| その他 | 292,177 | 289,707 |
| 投資その他の資産合計 | 4,593,008 | 5,317,242 |
| 固定資産合計 | 7,501,691 | 8,235,750 |
| 資産合計 | 55,644,102 | 53,543,863 |
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | | |
| 支払手形及び買掛金 | 1,652,570 | 1,412,992 |
| 短期借入金 | 553,361 | 554,315 |
| 1年内返済予定の長期借入金 | 190,992 | 180,608 |
| リース債務 | 12,213 | 22,026 |
| 未払法人税等 | 1,143,493 | 576,567 |
| 前受金 | 20,108,899 | 17,212,046 |
| 賞与引当金 | 440,585 | 174,832 |
| 役員賞与引当金 | 104,926 | - |
| 製品保証引当金 | 649,249 | 511,333 |
| その他 | 1,066,249 | 1,300,173 |
| 流動負債合計 | 25,922,541 | 21,944,897 |
| 固定負債 | | |
| 長期借入金 | 206,864 | 169,500 |
| リース債務 | 26,948 | 61,189 |
| 繰延税金負債 | 1,010,931 | 898,720 |
| 役員退職慰労引当金 | 257,274 | - |
| 退職給付に係る負債 | 138,453 | 142,574 |
| その他 | 18,389 | 540,205 |
| 固定負債合計 | 1,658,861 | 1,812,190 |
| 負債合計 | 27,581,403 | 23,757,087 |

(単位：千円)

| | 前連結会計年度 (2018年12月31日) | 当第1四半期連結会計期間 (2019年3月31日) |
|---------------|--------------------------|------------------------------|
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | | |
| 資本金 | 400,000 | 400,000 |
| 資本剰余金 | 9,193,505 | 9,250,501 |
| 利益剰余金 | 18,980,845 | 20,304,593 |
| 自己株式 | 188,971 | 173,388 |
| 株主資本合計 | 28,385,379 | 29,781,705 |
| その他の包括利益累計額 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 4,539 | 5,595 |
| 為替換算調整勘定 | 338,123 | 524 |
| その他の包括利益累計額合計 | 333,584 | 5,070 |
| 非支配株主持分 | 10,903 | - |
| 純資産合計 | 28,062,699 | 29,786,776 |
| 負債純資産合計 | 55,644,102 | 53,543,863 |

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

| | 前第1四半期連結累計期間 (自 2018年1月1日 至 2018年3月31日) | 当第1四半期連結累計期間 (自 2019年1月1日 至 2019年3月31日) |
|---------------------|---|---|
| 売上高 | 10,710,689 | 13,975,669 |
| 売上原価 | 5,713,293 | 8,039,569 |
| 売上総利益 | 4,997,396 | 5,936,099 |
| 販売費及び一般管理費 | 1,733,653 | 1,809,255 |
| 営業利益 | 3,263,742 | 4,126,844 |
| 営業外収益 | | |
| 受取利息 | 14,275 | 18,227 |
| 受取賃貸料 | 27,550 | 27,430 |
| 為替差益 | 145,567 | 48,756 |
| その他 | 4,832 | 2,591 |
| 営業外収益合計 | 192,225 | 97,005 |
| 営業外費用 | | |
| 支払利息 | 10,692 | 2,400 |
| 持分法による投資損失 | 16,056 | 110,832 |
| その他 | 2,697 | 15 |
| 営業外費用合計 | 29,446 | 113,247 |
| 経常利益 | 3,426,522 | 4,110,602 |
| 特別利益 | | |
| 持分変動利益 | - | 355,100 |
| 特別利益合計 | - | 355,100 |
| 税金等調整前四半期純利益 | 3,426,522 | 4,465,702 |
| 法人税等 | 1,045,305 | 860,708 |
| 四半期純利益 | 2,381,216 | 3,604,994 |
| 非支配株主に帰属する四半期純損失() | 326 | 371 |
| 親会社株主に帰属する四半期純利益 | 2,381,542 | 3,605,365 |

【四半期連結包括利益計算書】
【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

| | 前第1四半期連結累計期間 (自 2018年1月1日 至 2018年3月31日) | 当第1四半期連結累計期間 (自 2019年1月1日 至 2019年3月31日) |
|------------------|---|---|
| 四半期純利益 | 2,381,216 | 3,604,994 |
| その他の包括利益 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 1,253 | 1,055 |
| 繰延ヘッジ損益 | 86,078 | - |
| 為替換算調整勘定 | 265,882 | 263,320 |
| 持分法適用会社に対する持分相当額 | 14,650 | 74,278 |
| その他の包括利益合計 | 195,708 | 338,655 |
| 四半期包括利益 | 2,185,507 | 3,943,649 |
| (内訳) | | |
| 親会社株主に係る四半期包括利益 | 2,186,419 | 3,943,541 |
| 非支配株主に係る四半期包括利益 | 912 | 107 |

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

(持分法適用の範囲の重要な変更)

当第1四半期連結会計期間より、2019年1月に新たに出資した上海繁楓真空科技有限公司を持分法適用の範囲に含めております。

(追加情報)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 2018年2月16日)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

(四半期連結貸借対照表関係)

1 保証債務

連結会社以外の会社の金融機関等のリースに対し、債務保証を行っております。

| | 前連結会計年度 (2018年12月31日) | 当第1四半期連結会計期間 (2019年3月31日) | |
|-----------------------------|--------------------------|------------------------------|-----------|
| 東海光電股份有限公司(注)1 | 379,171千円 | 東海光電股份有限公司(注)2 | 340,911千円 |
| (注)1. 当社負担額は113,751千円であります。 | | | |
| 2. 当社負担額は102,273千円であります。 | | | |

2 当座貸越契約

当社及び連結子会社においては、運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行4行と当座貸越契約を締結しております。この契約に基づく当第1四半期連結会計期間末における当座貸越契約に係る借入未実行残高は次のとおりであります。

| | 前連結会計年度 (2018年12月31日) | 当第1四半期連結会計期間 (2019年3月31日) |
|---------|--------------------------|------------------------------|
| 当座貸越極度額 | 12,570,550千円 | 12,570,550千円 |
| 借入実行残高 | 553,361 | 554,315 |
| 差引額 | 12,017,188 | 12,016,234 |

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

| | 前第1四半期連結累計期間 (自 2018年1月1日 至 2018年3月31日) | 当第1四半期連結累計期間 (自 2019年1月1日 至 2019年3月31日) |
|-------|---|---|
| 減価償却費 | 55,541千円 | 57,264千円 |

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自 2018年1月1日 至 2018年3月31日)

配当金支払額

| (決議) | 株式の種類 | 配当金の総額 (千円) | 1株当たり 配当額 (円) | 基準日 | 効力発生日 | 配当の原資 |
|----------------------|-------|----------------|---------------------|-------------|------------|-------|
| 2018年3月28日 定時株主総会 | 普通株式 | 1,636,320 | 40 | 2017年12月31日 | 2018年3月29日 | 利益剰余金 |

当第1四半期連結累計期間(自 2019年1月1日 至 2019年3月31日)

配当金支払額

| (決議) | 株式の種類 | 配当金の総額 (千円) | 1株当たり 配当額 (円) | 基準日 | 効力発生日 | 配当の原資 |
|----------------------|-------|----------------|---------------------|-------------|------------|-------|
| 2019年3月27日 定時株主総会 | 普通株式 | 2,281,618 | 55 | 2018年12月31日 | 2019年3月28日 | 利益剰余金 |

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当社グループは、成膜装置事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

| | 前第1四半期連結累計期間 (自 2018年1月1日 至 2018年3月31日) | 当第1四半期連結累計期間 (自 2019年1月1日 至 2019年3月31日) |
|---|---|---|
| (1) 1株当たり四半期純利益 | 57円97銭 | 86円62銭 |
| (算定上の基礎) | | |
| 親会社株主に帰属する四半期純利益(千円) | 2,381,542 | 3,605,365 |
| 普通株主に帰属しない金額(千円) | - | - |
| 普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益(千円) | 2,381,542 | 3,605,365 |
| 普通株式の期中平均株式数(株) | 41,081,333 | 41,621,436 |
| (2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益 | 54円10銭 | 82円23銭 |
| (算定上の基礎) | | |
| 親会社株主に帰属する四半期純利益調整額 (千円) | - | - |
| 普通株式増加数(株) | 2,936,105 | 2,223,785 |
| 希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり 四半期純利益の算定に含めなかった潜在株式で、前 連結会計年度末から重要な変動があったものの概要 | - | - |

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2019年5月10日

株式会社オプトラン
取締役会 御中

有限責任大有監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 神山 貞雄 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 鴨田 真一郎 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社オプトランの2019年1月1日から2019年12月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（2019年1月1日から2019年3月31日まで）及び第1四半期連結累計期間（2019年1月1日から2019年3月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社オプトラン及び連結子会社の2019年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. X B R L データは四半期レビューの対象には含まれていません。